

(8) 中国



中国地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_は上方に変更、 \_は下方に変更)。

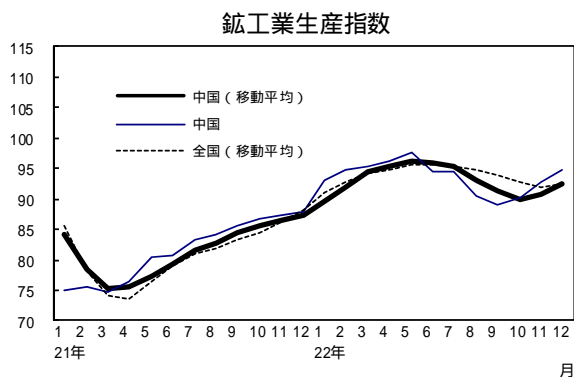
前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年11月)	今回(平成23年2月)	
景況判断	足踏み状態	持ち直しの動き	
鉱工業生産	減少	緩やかに持ち直している	
個人消費	持ち直しの動き	おおむね横ばい	
住宅建設	大幅に増加	増加	
雇用情勢	持ち直しの動き	持ち直している	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

鉄鋼は、アジア向け輸出が好調なことから、普通鋼鋼帯等を中心に高操業が持続している。化学は、合成ゴム等が中国向けに堅調なことから、増加している。輸送機械は、自動車、エコカー補助金終了の影響により減少したものの、輸出が緩やかに持ち直していることから、横ばいとなっている。一般機械は、半導体製造装置等を中心に減少している。電子部品・デバイスは、モス型半導体集積回路がスマートフォンやゲーム機向けで好調なことから、増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

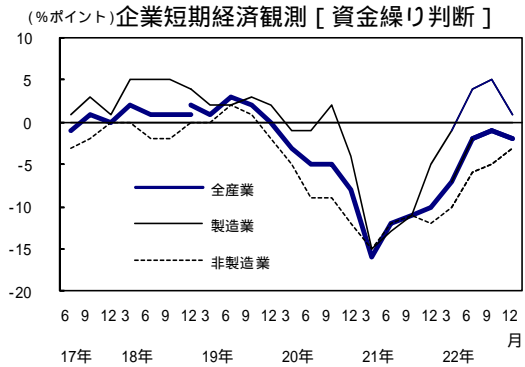
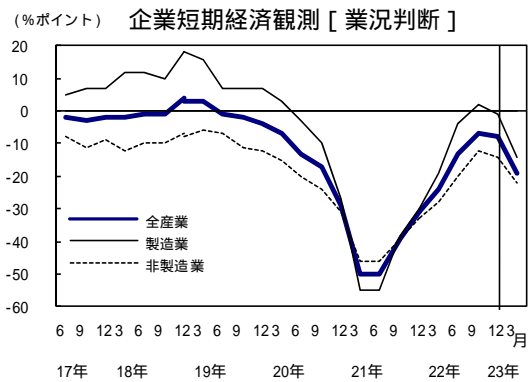
	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期		
鉄鋼	16.5	10.9	0.9	5.3	9.3		
化学	16.1	7.1	5.3	4.9	0.6		
輸送機械	14.8	2.3	0.5	0.0	14.1		
一般機械	10.7	5.2	1.2	2.2	3.6		
電子部品・デバイス	7.3	9.3	1.2	1.6	-		
鉱工業	100.0	4.8	1.3	0.7	0.2		

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
 2. 10~12月期は速報値。  
 3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。  
 2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

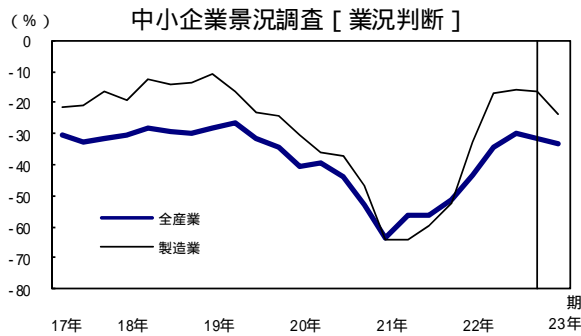
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年3月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

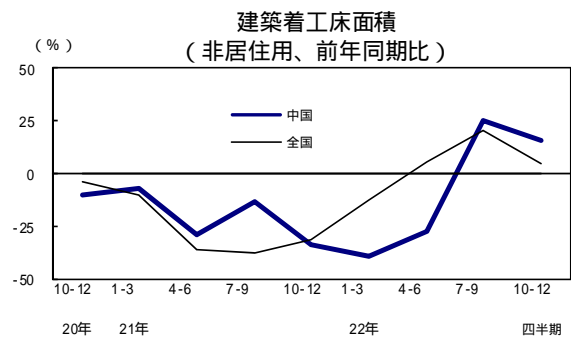
「取引先は、高水準で操業を続けている。受注先からのコスト削減要請は強いが、合理化を進めることで、利益は十分確保している(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	27.1	7.9(0.2)
製造業	30.8	14.6(2.6)
非製造業	21.9	0.5(3.0)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

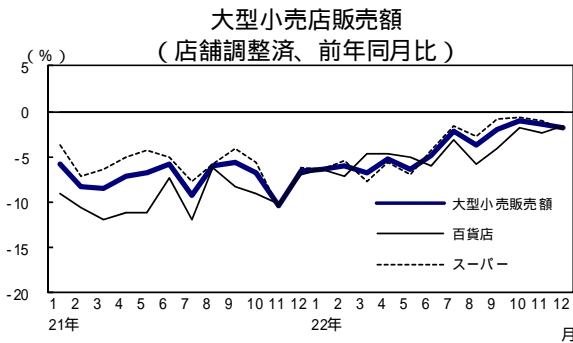
### 大型小売店販売額

10月は、下旬に気温が低下し、防寒小物や重衣料に動きがみられたことから、減少幅が縮小した。11月は、気温低下とともに、防寒衣料をはじめとして、紳士・婦人服ともに動きがみられたものの、飲食料品が低調であったことから、減少幅は拡大した。12月は、寒さが続き、コートなどの重衣料やマフラーなどの防寒商品に動きがみられたことから、減少幅は縮小した。日本百貨店協会によると、1月の中国地区の売上高は、前年同月比で2.8%減となっている。

スーパーは、野菜が相場高により売上を押し上げるなど好調に推移したほか、気温の低下とともに、鍋商材に動きがみられたことから、前年同期比の減少幅が縮小した。

### 景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「人の動きがあまり多くなく、客単価も相対的に低い(一般レストラン)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

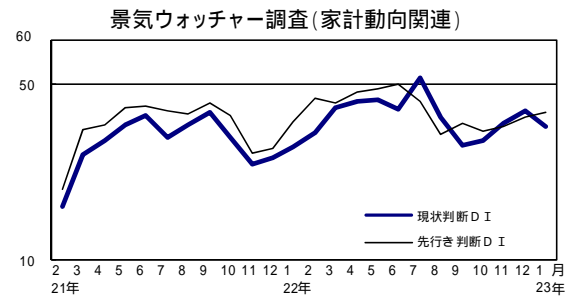
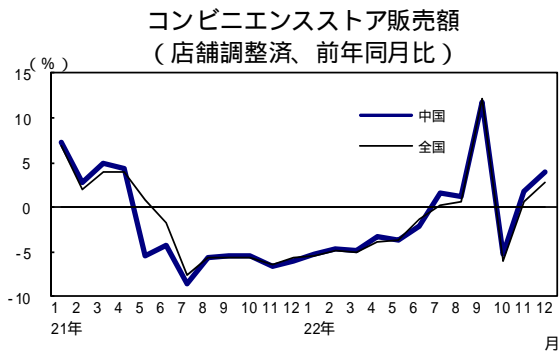


	22年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	6.4	5.5	2.6	1.5
百貨店	6.0	5.2	4.2	1.8
スーパー	6.5	5.6	1.8	1.2
乗用車	22.3	18.3	13.9	26.8
景気ウォッチャー	39.9	45.5	43.3	40.7

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

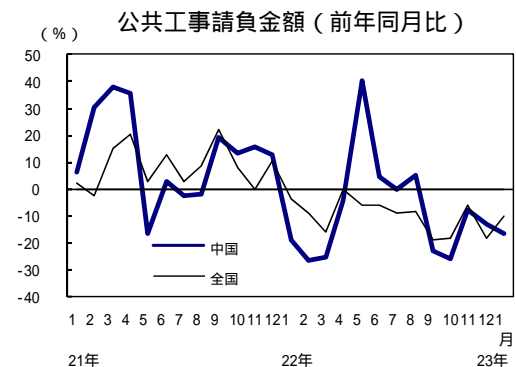
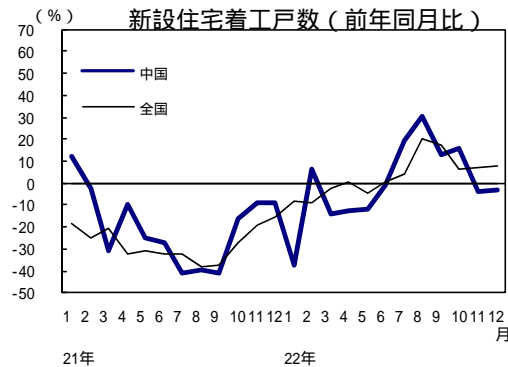
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、分譲が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

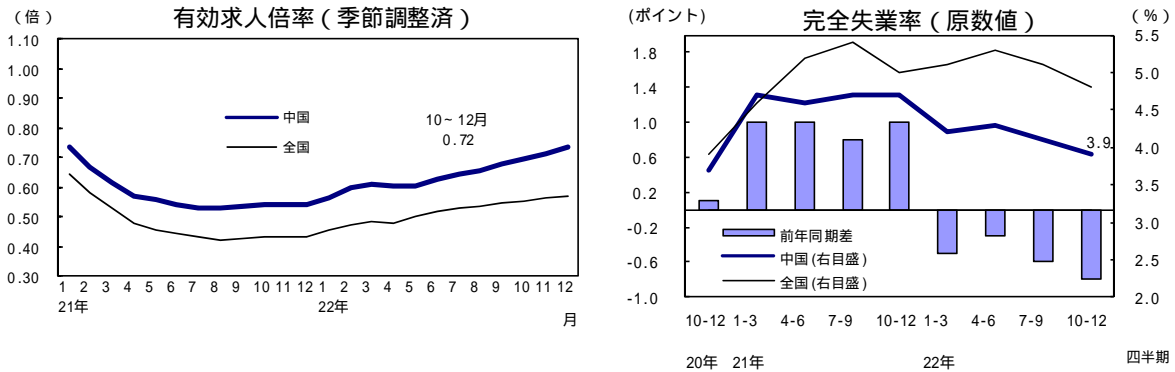


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連(現状)]

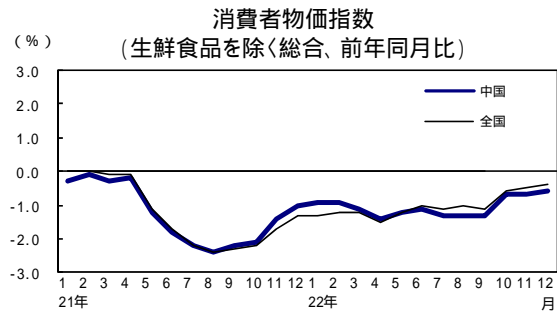
「業績は、前年をやや割り込む状況で推移している。求人数は回復してきているが、特に製造業で求職者の派遣離れが顕著であり、マッチングに苦慮している(人材派遣会社)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	23年1月
倒産件数	118	111	110	95	30
(前年比)	33.7	24.5	29.5	39.1	6.3
負債総額	367	244	213	170	54
(前年比)	61.4	67.2	34.6	63.6	45.6



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・正月からの大寒波による豪雪の影響で観光客のキャンセルが相次いでおり、来客数が伸び悩んでいる(商店街)

<先行き>

・春にかけて駅前の再開発が完了し、ホテル、クニリックモール、商業施設等のオープンも控えている。多少良くなる(スーパー)

